

Lecture - 01

Bウイルスからバイオセーフティへ －20世紀後半を振り返る－

山内 一也

東京大学 名誉教授

マカカ属サルの多くが保有するBウイルスは、ポリオワクチンの実用化がきっかけで、サル由来のもっとも危険なウイルスの代表となった。1965年、国立予防衛生研究所(現・国立感染症研究所) 麻疹ウイルス部でサルを用いるようになった私は、ウイルス専門家として、実験動物委員会に新たに設置されたサル部会の部会長をつとめることになった。サル部会が予算要求した霊長類繁殖計画は、霊長類センター設立という夢物語の実現につながり、さらに日本におけるバイオセーフティ対策の基盤整備へと進展した。半世紀にわたる日本でのバイオセーフティの歴史を振り返る。

【経歴】 山内一也

現在 東京大学 名誉教授

1992年～2007年 日本生物科学研究所, 主任研究員

1979年～1992年 東京大学, 医科学研究所実験動物研究施設, 教授

1980年～1981年 京都大学ウイルス研究所神経ウイルス病部門教授 (併任)

1978年～1979年 京都大学ウイルス研究所神経ウイルス病部門助教授 (併任)

1965年～1986年 国立予防衛生研究所麻疹ウイルス部室長

1961年～1964年 カリフォルニア大学獣医学部留学

1956年～1979年 北里研究所所員

1931年7月17日 神奈川県生まれ

東京大学農学部獣医畜産学科卒業 農学博士

天然痘と牛疫, 二大感染症の根絶に貢献。

牛疫根絶計画では, 国際獣疫事務局 (OIE) 学術顧問, 国連食糧農業機関 (FAO) 顧問

著書 多数 2021年 間もなく自伝が出版されます。